

7/29 埼玉県との第1回定期協議
2023年度埼玉県予算編成ならびに行政執行に関する要望を提出



県への要望書をお渡ししました



埼玉県生協連にて開催、埼玉県からは2021年度生協指導検査実施報告と今年度の計画について説明がありました。埼玉県生協連からは、2023年度埼玉県予算編成ならびに行政執行に関する要望について説明しました。次に、会員生協からの報告をおこない、懇談しました。



ずっとくらしのなかに
50th

写真ニュース

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

2022
秋号
No.83

(2022年10月発行)

Top News

9/12

埼玉県補助事業
助け合い活動交流会
ケアラー支援について学び、
コロナ禍での活動を交流しました



8/28 九都県市合同
防災訓練防災フェア

3年ぶりに開催され、
救援物資配布訓練などに参加しました



救援物資配布訓練

防災クイズに家族で参加いただきました

北本総合公園(北本市)で開催され、埼玉県と埼玉県生協連との災害時の基本協定に基づき、防災フェアでの救援物資配布訓練(飲料や菓子、ウェットティッシュ)、防災クイズなどで会員生協とともに参加しました。災害に備えた食品のローリングストックの紹介なども好評でした。

8/31

埼玉省委託事業
県内消費者団体全体研修会

埼玉県環境基本計画について学び、
団体活動交流しました



会場とZoomで参加いただきました

講演を受けてグループで話し合いました

埼玉会館および Zoom によるオンラインで、「埼玉県環境基本計画を学ぶ」をテーマに研修会を開催し、20団体51人(会場24人、Zoom27人)が参加しました。埼玉県環境政策課主幹の塩出貴史さんに、埼玉県環境基本計画の基本的事項として位置づけや策定の経緯、長期的目標や施策展開の基本的な考え方を踏まえながら、8つの施策の方向性について説明いただきました。講演を受けて、グループでわたしたちができることを話し合い、学習会後は3年ぶりに団体活動報告をおこない、交流しました。

9/17 4都県生協連共催学習会

憲法学習会「守りたい私たちのくらしと平和
～今こそ考えよう 世界のこと 日本のこと～」を
オンライン開催しました



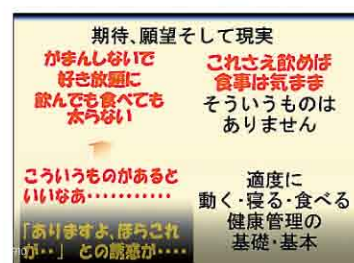
講師の谷口真由美さん

法学者で大阪芸術大学客員准教授の谷口真由美さんを講師に、憲法学習会をオンライン開催し、Zoom33人、YouTube視聴129人計162人が参加しました。谷口さんから「憲法は何条までありますか」「推し条文ってどれですか」「憲法を守らなければいけないのは誰ですか」の3つの問いからはじまり、私たちは憲法を守らなければいけないのではなく、守らせる方であり、憲法を「私は…」と一人称で読んでみることで、まず理解し、声を上げ続けることが大切であると話されました。

8/26

NPO法人埼玉消費者被害をなくす会
消費者力アップ学習会Vol.1

「食の情報、鵜呑みにして大丈夫?
～広告やメディアの情報に惑わされない力を養おう～」を
テーマに学習しました



高橋久仁子さん

オンラインで、高橋久仁子さん(群馬大学名誉教授)を講師に学習会を開催、84人が参加しました。マスメディアや宣伝広告に惑わされない食生活のためには、食べものや栄養が健康や病気に与える影響を過大に評価、信じることから脱却する「脱フードファディズム」とメディアリテラシーの育成が重要であると話されました。



会場の様子



開会あいさつする吉川会長理事

講師の渡辺道代さん



埼玉会館およびオンラインで、4生協40人(会場30人、Zoom10人)の福祉助け合い活動に関わる組合員・職員が集まり、助け合い活動交流会を開催しました。

東洋大学准教授の渡辺道代さんから、「ケアラー支援」について講演いただきました。埼玉県のケアラー実態調査やヤングケアラー調査結果を解説いただき、医療的ケア児の日常の映像視聴も折り込みながら、ケアラーやヤングケアラーの現状を話されました。さらに、ケアラーの支援ポイントや支えることができる環境についてなど「気がついた人・団体・地域が取り組む」ことが大切であると投げかけられました。

後半は、各生協のこの間の活動報告を聞き合いました。今後は、話を聞くだけでなく、ぜひ交流したいなどの感想が寄せられました。

7/31 第37回埼玉県原爆死没者慰霊式
今年も式典をライブ配信しました



会場の様子



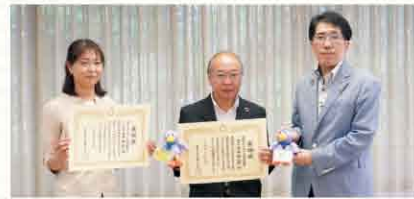
県立熊谷高校3年生による
平和の誓い

さいたま共済会館(さいたま市浦和区)で開催し、被爆者やご遺族、来賓、実行委員会団体代表など99人が参加しました。式典は、埼玉合唱団による「折り鶴」の合唱から原爆死没者名簿の奉納、しらすぎ会原明範会長による慰霊のことば、来賓あいさつ、広島市長・長崎市長のメッセージ紹介、県立熊谷高校の生徒による平和の誓い、被爆の証言が朗読されました。会場には、160人から寄せられた平和のメッセージが掲示されました。



生活協同組合コープみらい

埼玉県「さいたま緑のトラスト基金」
「彩の国みどりの基金」に
合計30万円を寄附



右から、埼玉県環境部
目良 聡部長
コープみらい財団
永井 伸二郎理事長
コープみらい
高松 八重子組合員理事

コープみらい財団は、「さいたま緑のトラスト基金」と「彩の国みどりの基金」に合計30万円を寄附しました。この寄附に対し、7月15日、埼玉県より感謝状をいただきました。「さいたま緑のトラスト基金」は、県内の自然や貴重な歴史的環境を守るために活用されています(今回の寄附で25回目・総額1,900万円)。「彩の国みどりの基金」は、森林の保全整備や身近な緑の保全・創出を積極的に進め、「みどり豊かな彩の国」を目指すものです(今回の寄附で14回目・総額は890万円)。コープみらい財団では今後も、地域や行政、組合員と連携した環境保全の取り組みを進めていきます。

医療生協さいたま生活協同組合

企業と一緒に健康づくり



医療生協さいたまの利根南地区の宮支店は、昨年東武動物公園駅前に店舗をオープンした企業と「まちづくり・健康づくりと一緒にできないか」と検討してきました。そして8月、店舗内のスペースで健康チェックを行いました。買い物に来ていたお客さまも誘い、血圧・骨密度・握力測定などを実施。医療生協さいたまの看護師による健康相談も行い、16人が参加しました。コロナ禍ですが、「またやってほしい」の声があります。感染防止策のルールを守りながら、今後も地域に向けて一緒にできることを考えていきます。

生活協同組合パルシステム埼玉

「野菜が苦手な子、集まれ!
収穫体験&現地調理」を開催



トマトを収穫

調理体験

パルシステム埼玉はパルシステム連合会との共催で、8月4日、パルシステムの産産地「野菜くらぶ」(群馬県)で収穫体験と現地調理のバスツアーを開催しました。6組14人の組合員親子が参加し、ピーマンとトマトの収穫体験のほか、とれたての新鮮な野菜とパルシステムの食材を使ったサンドイッチを作っていました。野菜が苦手な子どもたちも、自分で収穫した野菜はもちろん、いろいろな野菜を美味しく食べられました。

生活クラブ生活協同組合

「サステイナブルフェス」
“ひまわりプロジェクト”に
大勢の組合員が参加



収穫した花殻

種取り作業

福島県のNPO法人シャロームは、障害を持った方たちとひまわりを栽培し、油を製品化する活動を行ってきました。しかし東日本大震災により汚染された土壌でひまわり栽培ができなくなってしまい、全国の協力者に種を送り、実った種を福島に送り返してもらって「ひまわりオイル」を製造・販売するという、日本をつなぐプロジェクトを作りました。以前から一部地域で取り組んできましたが、2022年度は生活クラブ生協全体で「サステイナブルフェス」と銘打って、県内では組合員個人ほか、支部等のグループで692口分(1口種6粒ずつ)の参加があり、各地域でひまわりを栽培しました。

コープデリ生活協同組合連合会

創立30周年記念 環境シンポジウムを開催しました



東京・よみうり大手町ホールで開催し、会場とオンライン合わせ、400人近い方々にご参加いただきました



高村ゆかり東京大学教授による
基調報告

7月12日、コープデリ連合会創立30周年を記念した「未来へつなごう 環境シンポジウム」を開催しました。東京大学未来ビジョン研究センターの高村ゆかり教授による基調講演に続き、佐渡市の渡辺竜五市長、全国農業協同組合連合会の桑田義代表理事専務、マリン・エコラベル・ジャパン協議会の垣添直也会長、コープデリ連合会の駒形洋子理事がパネルディスカッションに登壇。各団体の環境に関する取り組みについてお話いただきました。最後に、コープデリ連合会の理事を務める早稲田大学社会科学総合学院社会科学部の赤尾健一教授より、コープデリの環境の取り組みに対する評価と期待についてご講演いただきました。

こくみん共済 coop〈全労済〉

交通遺児等への寄附
および横断旗の寄贈



マイカー共済の新規加入件数に応じて寄附を実施しており、2021年度においては埼玉県交通安全対策協議会の交通遺児援護基金に16万8,000円を寄附しました。この取り組みは2016年度からスタートし今回で8回目。寄附総額は108万3,100円となりました。また、マイカー共済の見積もり1件につき1本の横断旗を全国の児童館・小学校等へ寄贈する取り組みを進めています。2021年度はこくみん共済 coop本部を通じ12,582本寄贈し、子どもたちを交通事故から守る取り組みを進めています。

埼玉大学生生活協同組合

オープンキャンパスで
「受験生サポート」企画を
行いました



8月10日、23日、24日の3日間で、3年ぶりの対面オープンキャンパスが開催されました。生協学生委員会は大学と協力して「受験生サポート」を行いました。学科ごとに先輩と相談ができる「個別相談ブース」と受験までの勉強方法や参考書などを展示した「展示ブース」で埼玉大学への進学を目指す受験生、約900人のサポートができました。完全予約制で3日間で4,400組7,300人の予約があり、人数に制限がある中でしたが、来場された受験生からは好評で学生委員会にとっても充実した企画となりました。